

XII 排尿ケアチーム



排尿ケアチームは入院患者が排尿自立するために病棟スタッフの支援を行っている。泌尿器科医師、泌尿器科外来看護師、リハビリテーション部の作業療法士・理学療法士からチームは構成されており、病棟看護師とともに評価、計画、実施、治療後評価を行なう。対象患者は尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉などの下部尿路機能障害の症状を有する、あるいは見込まれる入院患者である。ゴールは自力での排尿管理で、自排尿または間欠導尿が可能となって退院することを目指している。尿道カテーテルフリーとならなかった患者さんの一部については外来排尿自立支援を泌尿器科外来で継続し、退院後に導尿終了したりカテーテルフリーとなるケースもある。必要な症例には随時個別対応開始し、週1回水曜日のカンファレンス・回診により方針を決定・修正した。

当チームの活動は4年目の安定期に入ってきたといえる。チーム活動のバロメーターである泌尿器科入院患者以外への介入例は64例で、2021年度の69例からほぼ横ばいであった。昨年度も院内の大部分の病棟と診療科からの依頼をうけたが、下部消化管外科、脳神経外科、整形外科、産科婦人科、脳神経内科など神経因性膀胱と関連した診療科が多かった。現在週平均で3-4例のケースに介入している。

2021年度に引き続き院内講習会をweb開催し、ナイトバルンの使用方法について動画ファイルを公開している。各種マニュアル類を充実させており、電子カルテにアップしている。

XII-1 今年度の主な活動

Web講演会

XII-2 2022年4月～2023年3月介入件数の内訳（合計104件）

対象患者	
患者数	104
年齢(中央値)	0-88(72)
男女比	76:28

依頼病棟		
病棟	患者数	介入回数
1号館6階西	1	1
1号館7階西	5	14
1号館7階東	1	1
1号館8階西	40	78
1号館8階東	1	6
1号館9階西	4	10
1号館9階東	5	15
1号館10階東	2	13
1号館10階西	5	20
1号館11階西	3	4
1号館11階東	2	12
1号館12階	6	21
1号館13階西	4	11
10号館4階	2	3
10号館5階	8	26
10号館8階	1	2
10号館9階	11	36
GCU	1	9
救急病棟	1	5
SCU	1	5

依頼科			
診療科	患者数 (昨年度)	介入数	介入数 平均
泌尿器科	40 (51)	81	1.97
泌尿器科以外計	64 (69)	209	3.31
下部消化管外科	13 (14)	45	
脳神経外科	9 (11)	27	
整形外科	6 (4)	24	
呼吸器内科	5 (3)	14	
アレルギー・リウマチ内科	4 (1)	5	
耳鼻咽喉科・頭頸部外科	3 (1)	6	
肝胆膵外科	3 (0)	7	
産科婦人科	2 (3)	5	
血液内科	2 (3)	12	
脳神経内科	2 (5)	6	
循環器内科	2 (3)	3	
救命救急センター	2 (3)	12	
歯科口腔外科	2 (0)	7	
腎透析内科	2 (0)	13	
小児科	1 (3)	1	
呼吸器外科	1 (1)	2	
上部消化管外科	1 (1)	6	
消化器内科	1 (0)	1	
NICU	1 (0)	9	
乳腺内分外科	1 (0)	1	
ペインクリニック部	1 (0)	3	
精神科神経科	0 (2)	-	
形成外科	0 (1)	-	

原疾患	
前立腺全摘術後	38
結腸・肛門手術後	12
脊椎疾患	11
子宮手術後	3
尿道疾患	1
精神疾患	0
その他	39

依頼理由	
尿閉	63
術後尿失禁	37
頻尿	2
尿失禁	2

介入数	
のべ介入合計	290
回数(中央値)	1-10 (2)
介入1回	12
介入2回	57
介入3回以上	35

介入内容（重複あり）	
薬物療法	40
尿道バルン抜去	39
骨盤底筋体操	37
留置継続	23
抜去検討のみ	21
間欠導尿	17
キャッピング指導	5
ナイトバルン	1

転帰	
自排尿	32
間欠自己導尿(CIC)	5
CIC+自排尿	2
CIC+ナイトバルン	1
腔導尿	1
尿道バルン留置継続	21
留置(DIBキャップ)	5
失禁	34
失禁改善	2
治療中止	1

カテーテル抜去率：
カテーテルフリー/尿閉
40/63 (63.4%)